

三十五回記念展受賞者の声

文部科学大臣賞「緑風」 児玉八千代



画龍点睛 三十五周年 誠におめでとうございませす。また、このような記念すべき年に、思いがけずもこのような素晴らしい賞

を賜り、感謝の念でいっぱいです。

さて画竜点睛が「ようてんせい」という言葉があります。龍の絵に瞳を描き入れる。最後は魂を入れる作業です。それは私の描く日本画における「動物画」では大変重要ですが、一方、最後の最後に猫の瞳を描き入れることを目指して制作することは、大いなる楽しみでもあります。

それが今回の作品では大きな意味を持ちました。それは、今年がああ未曾有の大災害の年だったからです。

私は東京で、幸い人的にも物的にもなにも被害がなかったものの、震災後、関東でも様々な事がありました。それでも被災した方々の比ではないのであえて列挙はしませんが、一つだけどうしても個人的に耐え難かったのは毎日毎日起こる余震でした。地震酔いになり、絵を描く気力も環境も全くありませんでした。

あの春の頃、私にとって世界は色を失い、まさに灰色だったのです。余震がほとんど起きなくなると、ようやく絵を描くことが出来るようになって、この苦難の二〇一年を形に残したいと強く思うようになりました。しかし気が付けば季節はすでに『節電の夏』。

そんな中この夏の象徴である簾と朝顔の光のハーモニーという小さな感動と出会ったのです。イメージはたちまち広がり、空想の中で悪戯な猫が現れました。

制作はいつもの三倍の時間と苦勞の連続でしたが、最後の瞳を描き入れた瞬間、絵を描くこと、描けることがどんなに幸福

で有難いことなのかと、胸が一杯になりました。まさに私自身にとっても画竜点睛の瞬間だったのです。

この先、どんな困難な状況が訪れようとも、この感動と感謝をずっと忘れずにいようと思っております。

東京都知事賞「人々に残るものは」 河野みち子



この度は、大変大きな東京都知事賞を頂きましてありがとうございます。皆様へ感謝の気持ちで

いっばいで自分でも驚いている次第です。長年描き続けてきましたが、改めて身の引き締まる思いでございます。

三月の震災以来、日本国中が本当に暗く、気持ち落ち着かない中、何もなすことがなく茫然とするばかりでテレビなどを見続けてきました。

私も、仙石線で現地に足を運びました。が、無力さ、焦り(なにをさせるのかわかりませんが)だけが残り残りました。知人も被災者となり、小学校に着のみ着のまま、避難生活を送る身となつてしまいました。このごろやつと他の地に永住の地を見つけましたと便りがありました。

すべてを失うとはどういう事か、私にははかり知れませんが、そんな中でやつと描いてみようと、気持ちを整理し、出来上がった作品です。様々な思いの中、日々は躊躇することなく過ぎてゆきますが、これからはガンバッテ描いてまいります。

東京都議会議員賞「秋景」 早田美智子

この度は思いもかけぬ大きな賞を戴きありがとうございます。これまで展覧会の度に中尾先生を始め沢山の方からアドバイ

スを戴いてきましたが、今回の受賞はその皆さまのお陰と心から感謝申し上げます。次第です。

私の絵は「どう」ということのないその辺の風景が多いです。風光明媚な景色よりも、足元の肌触りというか空気というか、その場を歩いている感じが表現できればと思っております。

幼い頃の、野山を駆け回っていた記憶に引き寄せられながら描いていますが、一体私は何を表現したいのか、まだ掴めないでいます。しかし悩みは楽しくもあり、です。

大変な災害があつて、私も「いのち」や「暮らし」を見つめ直す機会を得ました。いつの日か形に出来ればと思っております。最後に今回の受賞をおそらく一番喜んで下さっているだろう故栗津先生に心から感謝致します。

新日美大賞「水の音」 山田静子

「水の音」は届いたでしょうか？制作日数三ヶ月。シヨパンの「ノクターン」3番を聴きながらキャンバスに向かいました。

水の音とは私の心の音です。緊張と緩和。希望と落胆。執着への決別。など心の葛藤を水で表現できないものかと、制作に取り組みました。水を連想させるマチエールと、懐かしさを連想させる色にこだわって、ドリッピングを中心に進めました。なかなかイメージ通りにはいかず、泣くことも多々ありましたが、制作過程で美しい色や形に何回も出会い、言葉に出来ない感動を味わうことも出来ました。

最後は絵が壊れる寸前でしたが、ふと心が静かになった時に完成させました。青く重たい表情ですが、今年の夏の心の色です。

私の絵は理解されにくい内容ですが、一人でも多くの方が共鳴してください。

ば嬉しく思います。今後も絵を描ける喜びを忘れず謙虚な姿勢で制作に取り組んでいきたいと思っております。

新人賞「奥入瀬の流れ」 神田紀和



この度は「新人賞」という名誉な賞を頂き驚きと共に大変光栄に感じております。美大を卒業後、個展を

中心に作家活動を続けてきましたが、今までの努力をこのような形で認めて頂いたように嬉しく思っております。

私の画風は絵を描き始めて以来写真を通してきました。題材は風景と静物が中心で、今回の「奥入瀬の流れ」では緑の使い分けと川の流れの表現に苦勞しました。

絵を描く人は誰でも思うことですが絵画は奥が深く、何枚作品を描いても新しい発見があり探究心が尽きることがありません。

私もこの度の受賞をひとつの節目として、より一層美術の道に精進していきたくと考えています。また新日本美術協会創立三十五周年という年が偶然にも私の年齢と同じということもあり、これも何かの縁かと不思議に感じております。最後に私を今まで支えてくれた方々に感謝をしたいと思います。

新人賞「湧く」 堀越勝博



絵をやり始めまして月日はまだまだ浅いのですが、最初の頃よりキャンバスに向かっている時、良い悪いは別として自分の

事を見つめていることが多くなったような気がします。

経験があまり無いので描きたいと思う物は出てくるのですが「遠くの方で何